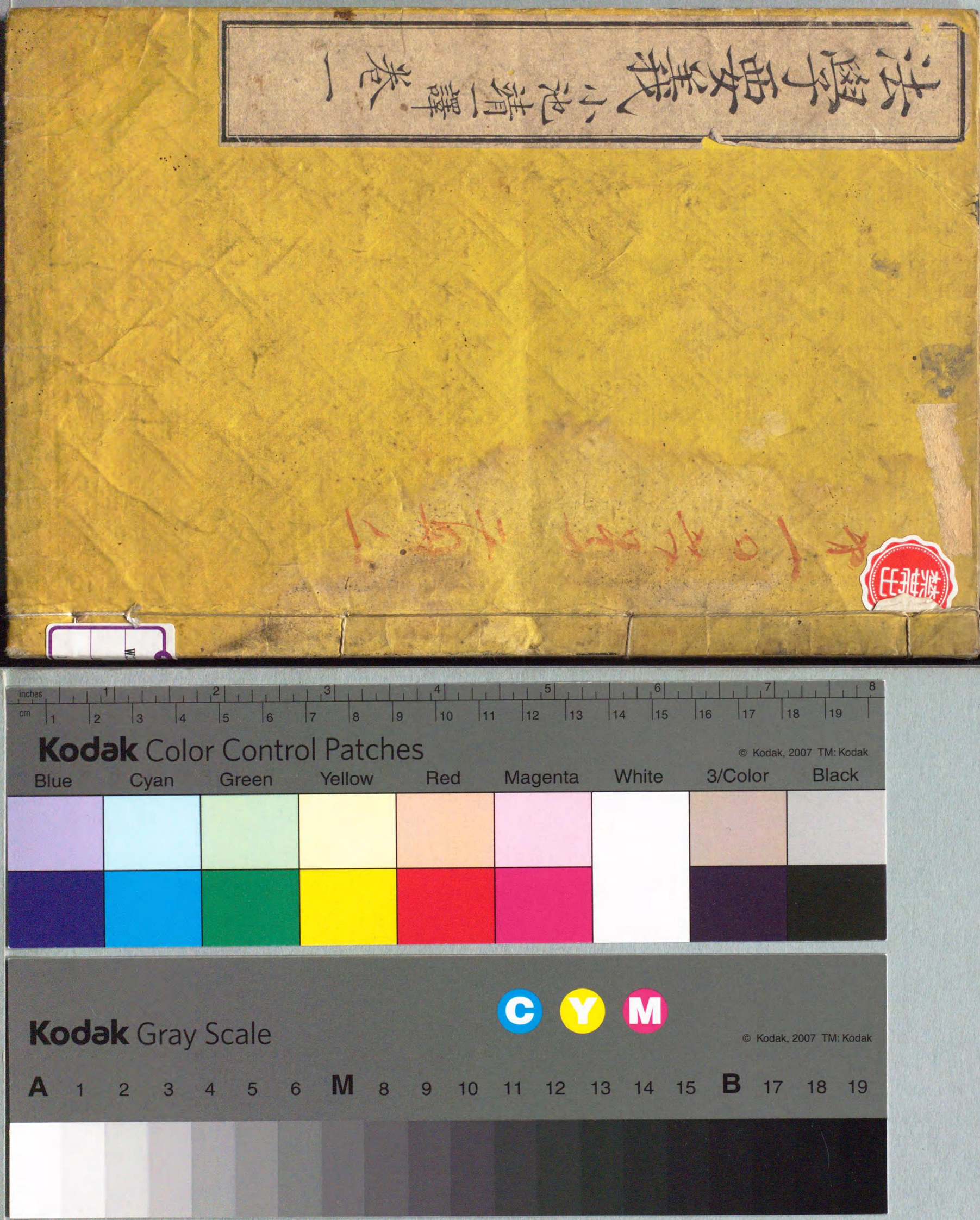

Kodak Color Control Patches
© Kodak, 2007 TM: Kodak
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
Kodak Gray Scale
C Y M
© Kodak, 2007 TM: Kodak
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

G22567
39.2.24
高等法院
圖書館藏

法學要義敘

法學者索法理之通萬邦者而溯其源究其流用以審治國理民之大經也蓋地球之廣建國如林文質異俗寛苛殊政上自文明下至蒙昧其狀其態豈翅千類萬別乎故法理之通萬邦者寂不易覩而其學亦難講然

高等法院圖書館
繁治文庫 1182
昭57 紙

明

英國龍動 錫爾敦亞毋斯著
小池靖一譯

學要義

廷瀾堂藏梓

G22567
39.2.24

明治十年十二月稟准

英國龍動 錫爾敦亞毋斯著
日本加賀 小池靖一譯

法學要義

迴瀾堂藏樣

法學要義叙

法學者索法理之通萬邦者而溯其源究其流用以審治國理民之大經也蓋地球之廣建國如林文質異俗寛苛殊政上自文明下至蒙昧其狀其態豈翅千類萬別乎故法理之通萬邦者寂不易覩而其學亦難講然

財産以資其生交易以通其功
契約以固其信而有爭者焉則
就君長判曲直以安其所此人
類所以成家建國之大本而通
萬邦亘古今無少異焉則法學
豈不可講哉惟網羅廣大載籍
浩繁學者每憾不得其津涯余
就泰西典籍求得此學梗概者

久矣茲獲英人亞毋斯所著紫
恩斯阿弗澇者讀之其所論損
益歷世學士之說出入各國人
事之情以罄其精究其理繁簡
合宜詳略得要非余所謂能得
此學梗概者乎因講究玩索覺
有少得爲竊謂法理於律法猶
動理於機器也不知法理而講

律法者何異於不知動理而執機器者也運用之術猶且不易習況探其賾乎然而我邦方今講律法者往往置法理而不問豈非惑乎此編雖不敢曰審治國理民之大經而於窮法理者未必無裨補焉乃宣譯上梓以問諸世噫余也譾劣敢為此舉

得罪於大方固也然古人有言曰雖有舜禹之智吟而不言不如瘖聾之指麾也亦庶幾教志於法學者得其津涯乎

維時明治十一年四月中浣於東京湯島僑居廻瀾堂

加賀　小池靖一識

蓮洲市堅嗣書

東京帝國大學圖書

凡例

第一則

此編ハ一千八百七十六年米國紐育ニ於テ印行シタル萬國通百科彙纂（インツルナシヨナル、サイエンティフィクセリイス）第十卷英國龍動大學及「インス、オフ、コールト」學校ノ名ノ法學博士、兼龍動大學考試師「バルリスト」ル、アト、ラウ」（法學登科士ノ稱）錫爾敦亜母斯（ヒルドアモス）氏ノ著ハスル所「サイエンス、オフ、ラウ」ヲ譯スルモノナリ「サイエンス、オフ、ラウ」ハ法學ト譯ス、故ニ題名單ニ法學ト稱ス可キニ似タリ、然リト雖モ此著ハ原序

ニ言フガ如ク法學專門ノ學生ノ為メニ作ルモノニ非ズシテ、普ク百科ノ學生ヲシテ法學ノ大要ヲ知ラシメンガ為メナリ、因テ今添ルニ要義ノ二字ヲ以テス、

第二則

夫レ人民ノ相聚テ社會ヲ成スヤ、必ズ之ガ統治者アリ、統治者アレバ則必ズ法律アリ、法律アリテ、而シテ財産婚姻契約ノ事稍定リ、而シテ遵背其跡ヲ異ニスル者自ラ出ヅ、且ツ罪ニ大小深淺ノ異ナルアレバ、則刑ニ寛猛輕重ノ差無カル可ラズ、而シテ更ニ之ヲ條析支分セバ、則千緒萬派、固ヨリ一朝ニシテ語ル可ラズ、要スルニ社會成リ政府立チ、而シテ百事由テ遞ニ生ジ、支派又幾ンド極リ無シ、猶千百ノ目、一條ノ綱ニ從フガ如シ、蓋シ其事ノ源流ヲ詳審シ、其相ヒ關係スルノ理ヲ尋究シ、以テ治國理民ノ常經ノ當ニ據ルベキ所ヲ明カニスルハ、則法學ノ事ナリ、故ニ法律ヲ制スル所以ノ材ヲ審カニスル、之ヲ法學ト謂フ、是ヲ以テ法律ヲ講ズルト、法學ヲ修ムルトハ、自ラ別アリ、法律ヲ講スルハ、則已ニ成ルノ形體

ニ就キ、其運用ノ機ニ習熟スルニ在リ、法學ヲ修ムルハ、則未ダ形ヲ成サヾルノ材質ニ就キ、其交渉スル所ノ脈絡ヲ繹ヌルニ在リ、讀者先ヅ此理ヲ會得セバ、則思半ニ過ギン、

第三則

凡ソ西洋ノ文、譯スルコト易カラズシテ、填字ノ允當ナリ難キハ其通患ナリ、況ンヤ余ガ淺學寡聞、文字ニ乏シキヲ以テスルヲヤ、其讀者ヲシテ隔靴ノ憾、嚼蠟ノ思アラシムルハ、固ヨリ免レザル所ナリ、殊ニ法學ノ如キハ、特用ノ科言アリテ、片

言隻詞ニシテ、數事ノ意義ヲ總ブル者少ナカラズ、今亜毋斯（アモス）ノ法學通考（原序ヲ見ヨ）、本唐（ベンサム）ノ制法總理、ゼゼオリー、オフ、レジスレイション、奥斯汀（オウスティン）ノ法學講義、レクチュルヲン、ジュリスプルデンス、貌剌屈斯頓（ミッ）ノ英法註釋、コムメンタリイ、オンゼ、ラウス、オフ、イングランド、斯密（スミッ）ノ義法要覽、マニュウル、オフ、イクイティー、埋内（メイヌ）ノ村落論、ウィルレイジ、フ、ヒュミュニティー及古法論、ファンセント、ラウ其他法律字典等ノ諸書ヲ參照シテ之ヲ譯シ、其或ハ解シ難キヲ恐ルヽ者ハ、直チニ其義ヲ下ニ註シ、又往々愚按ヲ加フ、顧フニ妄謬杜撰亦少ナカラザルコヲ、大方ノ諸哲、垂矚ノ餘、叱正ヲ賜ヘバ幸

甚、

第四則

此編原書ノ紙號ヲ存シ、毎紙ノ始ル所ニ、星點（米）ヲ附シ、其號數ヲ標記シ、以テ讀者ノ對照ヲ易クシ、且ツ全編譯成ノ後ヲ俟テ、其附錄ノ細目錄ヲ譯シ、以テ搜索ニ便セシト欲ス、故ニ卷首ノ目錄ト雖モ、亦原書ノ紙數ニ隨フ、

小池靖一又識

原序

本編論ズル所ノ篇目、余ガ前著法學通考（エンシスチマチク、ビユウオスヅエ、サイエンス、オヴ、ユリスプルデンス）ニ論ズル篇目ト、相同ジキ者多シ、因テ余ガ此ニ著ヲ編スルノ意ヲ開陳シ、其相異ナル所以ヲ明ニスルモ、亦必ズシモ無用ニ屬スルト為ズ、之ヲ開陳スルヨリ他ナシ、唯此二著ノ性質旨趣ヲ分別スルニ在ルノミ、夫レ余ノ曩ニ著アルハ、專ラ法律ノ門業ヲ修メント欲セザルモ、凡ソ法律ヲ講習スルヲ主課ト為ル學生ノ為メニ作ルナリ、本編ハ凡ソ萬志ノ學

生ノ為メニ著ハスモノニシテ、其或ハ物理ノ學ヲ攻メ、或ハ倫理ノ學ヲ修メ、其他其ノ志ザス所、其ノ主トスル所、何レニ在ルヲ問ハズ、之ヲ教導セントト欲スルニ在ルナリ、故ニ余ノ本編ヲ著スヤ、自ラ謂ク之ヲ讀ム者ハ、畧ボ學論ノ法ヲ知ル者ナル可シト、因テ廣ク其渉ル所ヲ論シテ、カヲ科趣ニ專ニセズ、是ヲ以テ一ニハ法律ノ倫理ニ關係スル所ヲ説キ二ニハ其ノ社會及ビ國ノ組成ニ關係スル所ヲ説クト、他編ニ於テスルヨリ詳審ヲ致スヲ得タリ、蓋シ方今本邦ニ於テ、倫理

ノ學、未ダ全ク緒ニ就カズ、繽紛淆亂シテ、曾テ定ヤル所ナシ、是ヲ以テ法律ヲ論シ、政治ヲ説クニ、未ダ確乎不拔ノ格言ヲ、採テ以テ禦具ト為ス可キ者アラズシテ、其論旨、輙モスレバ駁擊ヲ受ク、故ニ之ヲ立テントト欲スルトキハ則本論ノ外ニ説及セザルヲ得ズ、而シテ倫理ニ渉ル尋常ノ名詞ト雖モ、之ヲ説明セントト欲スルトキハ、政治論及ヒ宗教論ノ劇戰ニ干渉セザルヨ最モ難シ、方今ノ法律政治ノ論者タル、亦至逆ノ境ニ在リト謂フ可シ、

然リト雖モ余ハ論歩倫理ヲ説カザルヲ得ザルニ至ルトキハ、則之ヲ究メ之ヲ索メ、敢テ其難キヲ辭セズ、始ヨリ終マデ、社會ノ倫理ニ由テ立ツハ、姑ク時ノ先後ヲ論ゼズシテ唯思考ノ順序ヲ以テスレバ、其ノ法律ニ由テ立ツノ前ニ在リ、唯倫理ハ法律及政府ノ輩固収結シテ維持スル微ケレバ、則最モ生長ノ望ミアル者ト雖モ、亦極テ薄弱脆軟ニシテ、久シキニ堪ユル能ハズ、況ンヤ其成熟スルヲヤトノ論據ヲ固執シ、力ヲ盡シテ其理ヲ明ニシ、曰ク社會ハ唯人民相爭テ利ヲ求

ムルニ由テ立ツニ非ズシテ、其相互ノ關係アルニ由テ立ツナリ、曰ク社會ノ成分ハ、跡ニ就テ論ズルモ、理ニ依テ論ズルモ、團衆ニ在テ、各個人ニ在ラズ、曰ク姑ク時ノ先後ヲ問ハズ、唯思考ノ順序、輕重ノ秩次ヲ以テ論ズレバ、國ノ立ツハ之ヲ組成スル團衆、未ダ成ラザル前ニ在リ、團衆ノ大ナル者ノ立ツハ、其小ナル者、未ダ成ラザル前ニ在リト、是レ余ノ主張スル所ノ説ニシテ、毎ニ之ヲ論ズルノ機ヲ失スルヿナシ、蓋シ凡ソ國ノ以テ成ル所ノ團衆ヲ綱紀シ、之ヲ收結シテ一體ナ

ラシメ、以テ其氣脈ヲ保チ、而シテ其彼此ノ關係ト、其ノ國ニ對スルノ關係ヲ、確定整理スルハ、法律ノ歸趣ニシテ、乃チ其治國ノ具タル所以ナリ」

余ガ本編ヲ著スヤ、前著ト同ジク强メテ自家ノ論爭ヲ禁ズ、蓋シ天下ノ萬事、之ヲ為ス各其時アリ、顧フニ論爭ト雖モ亦然ラン、夫レ或ル時ハ著作者互ニ相ヒ排擊シ、或ル時ハ著作者ト、評論者ト、互ニ相ヒ辨駁スルヤ、其ノ人智ヲ皷動振作スル亦多シ、是レ方今ノ世況ニシテ、コヽニ論爭ノ時アリト謂フ可シ、唯已ニ論爭ノ時アリ、則チ信

ジテ確説真理ト為ル者ヲ經緯シ、秩然相次デ之ヲ講明シ、添ユルニ四方ノ事實ヲ以テスル、亦其時其所ナキヲ得ズ、余ノ本編ニ於テ、自ラ强メテ論爭ヲ禁ズルハ蓋シ確説真理ト信ズル者ヲ講明スルノ時ト所トヲ得ント欲スルナリ、且余ノ多ク倫理法律政治ノ論派ヲ知ルヤ、以為ラク其謬ル所ヲ舉ゲ、其至ラザル所ヲ示シ、以テ其ノ回顧ヲ求ムルハ、親睦ノ情ニ悖ル所アリト、蓋シ大家ノ卓卓スル者ヲ駁擊スルハ、極テ虚心誠意ヲ以テスルト雖モ、亦其人ヲ誣ヒ、其人ヲ辱カシム

ルノ恐レアリ、而シテ夫ノ著作家ノ、時ニ盛ンニ時ニ衰ヘル者ノ若キハ、其勢力ノ及ブ所、憂フ可キ者無キニ非ズト雖モ、亦深ク論ズルニ足ラザルナリ、

方今法律ノ盛ナルヤ、完備セル普通學課ニハ將ニ必ズ之ヲ其一ニ居クニ至ラントスルノ兆少ナカラズ、夫ノ大法廳設置條例（近年英國巴カ門ニ於テ條例ヲ設定シ義法廳常法廳海事裁判廳倒行裁判廳其他諸法廳ヲ合併シ号シテ大法廳ト云ヒ大ニ裁判ノ手續ヲ改革セリ）ヲ施行シテ、漸ク英國法律ニ存スル古來ノ特殊ノ科習ヲ廢スルガ如キ、世舉テ愈〻法律

ノ言辭ヲ平凡ニシテ、其學ヲ容易ニスルヿヲ望ムガ如キ、更ニ上等教育ノ真境ヲ想起シテ、政治ノ學ヲ其中ニ加ヘント欲スル説ノ如キ、英國ノ三大學校「インス、オフ、コルト」（法學校ノ名）及ビ法學會ガ力ヲ勉メテ法律ヲ業トセント欲スル者ト、欲セザル者トヲ問ハズ、凡ソ法律ヲ專攻スル者ノ課業ヲ廣且深クシテ、弘及セント欲スルガ如キ、貿易ノ利害、交際ノ便否ヲ考察スルヨリ、外國ノ法制ヲ採用セントト欲シテ、之ヲ講究スルガ如キ、懇篤仁厚ナル人ガ、國際法ヲ擴張シテ、以テ戰爭

ノ開端ヲ少クシ、及其慘刻ヲ減ゼントスルガ如キ、是レ皆其兆ノ最モ睹易キモノナリ、凡ソ世ノ論説講釋ヲ稱シテ能ク衆人ニ通ズルト為ルノ意ヲ察スルニ、蓋シ二義アリ、一ハ真ニ志ヲ篤クシテ講究スルニ代ユ可キモノヲ云フ、論者講者ノ學ニテ得タル所ヲ、明瞭ニ整頓シテ、讀者聽者ニ通ジ以テ其レヲシテ其自ラ學ビ得タル所ヲ、盡ク發明悟會セシメ、其探究ノ心ヲ饜シ、勉勵ノ力ヲ奏セシムル、是レナリ、二ハ科言ヲ把テ、通話ニ翻シ、唯一科ヲ知テ、他ニ通セザル人

ガ、頑論僻説ヲ以テ、陰翳シタル意旨ヲ新タニ詳明シ百科百趣ノ人ヲシテ、互ニ學業上ニ於テ相接セシメ、及ビ初學者ニ佳境ノ疑フ可ラザル者アルヲ開示シ、其探究ノ心ヲ發揮シ、之ヲ鼓舞シテ益〻其業ヲ進ミ、其學ヲ研カシムル為メニスル、是レナリ、余ノ講釋ヲ作ス、毎ニ其ノ第二義ヲ以テ衆人ニ通ズル者タルヿヲ欲シテ、第一義ヲ以テスルヿヲ欲セズ、本論ヲ著ス、亦固ヨリ其ノ第二義ニ在ルヿヲ期スルナリ、

テムプル、キングスベンチ街第九號ニ於テ

錫爾敦、亞母斯識（シルドン、アモス）

廻瀾堂藏板

法學要義總目

卷之一

第一篇　法學近世ノ歴由及現今ノ狀態ヲ論ズ

第二篇　法學ノ區域ヲ論ズ

卷之二

第三篇　法律及倫理ヲ論ズ

第四篇　法律ノ生長ヲ論ズ上

第五篇　法律ノ生長ヲ論ズ下

卷之三

廻瀾堂藏板

第六篇　原意及名詞ヲ論ズ
卷之四
第七篇　國家其他國ノ成分ニ關係スル法律ヲ論ズ
卷之五
第八篇　所有法ヲ論ズ
卷之六
第九篇　契約法ヲ論ズ
卷之七
第十篇　刑法及治罪法ヲ論ズ

如濤堂藏板

卷之八
第十一篇　訴訟法ヲ論ズ
卷之九
第十二篇　國際法ヲ論ズ
卷之十
第十三篇　法典ヲ編成スルヿヲ論ズ
第十四篇　法律及政府ヲ論ズ
附錄　細目錄

如濤堂藏板

法學要義總目終

法學要義卷之一目次

第一篇　法學近世ノ歴由及現今ノ狀態ヲ論ズ

講明ノ次序　一丁

沐唐氏ノ影響　三丁

奥斯丁氏ノ法學史上ノ地位及其影響　四丁

理内氏ノ村落論（ヴィレイジコムミュニティイ）　五丁

英國慣習法ノ歴史及影響　七丁

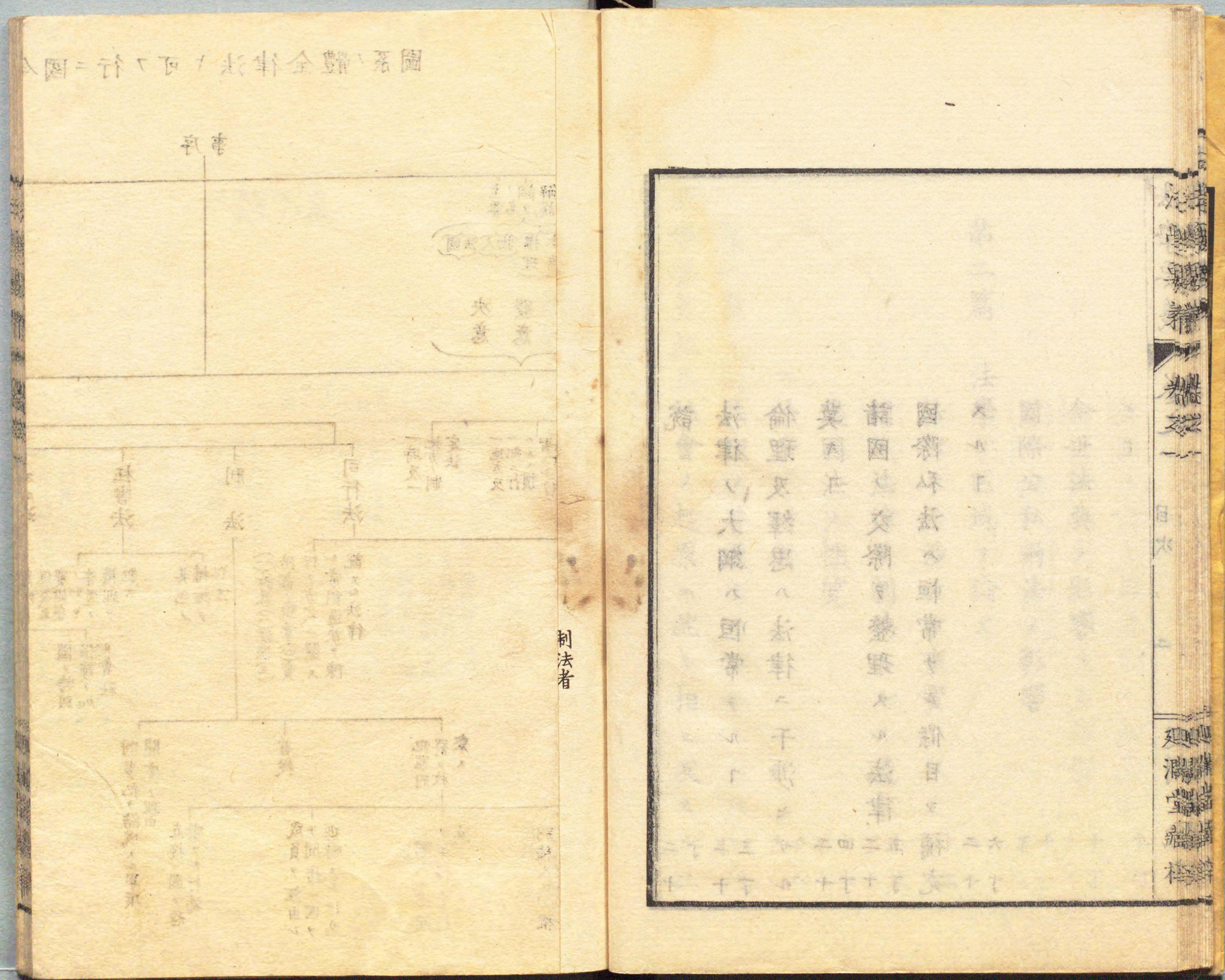
英國ニ於テ羅馬律ノ講究行ハル

ノ　九丁
今世法典ノ影響　十丁
國際公私兩法ノ影響　十一丁

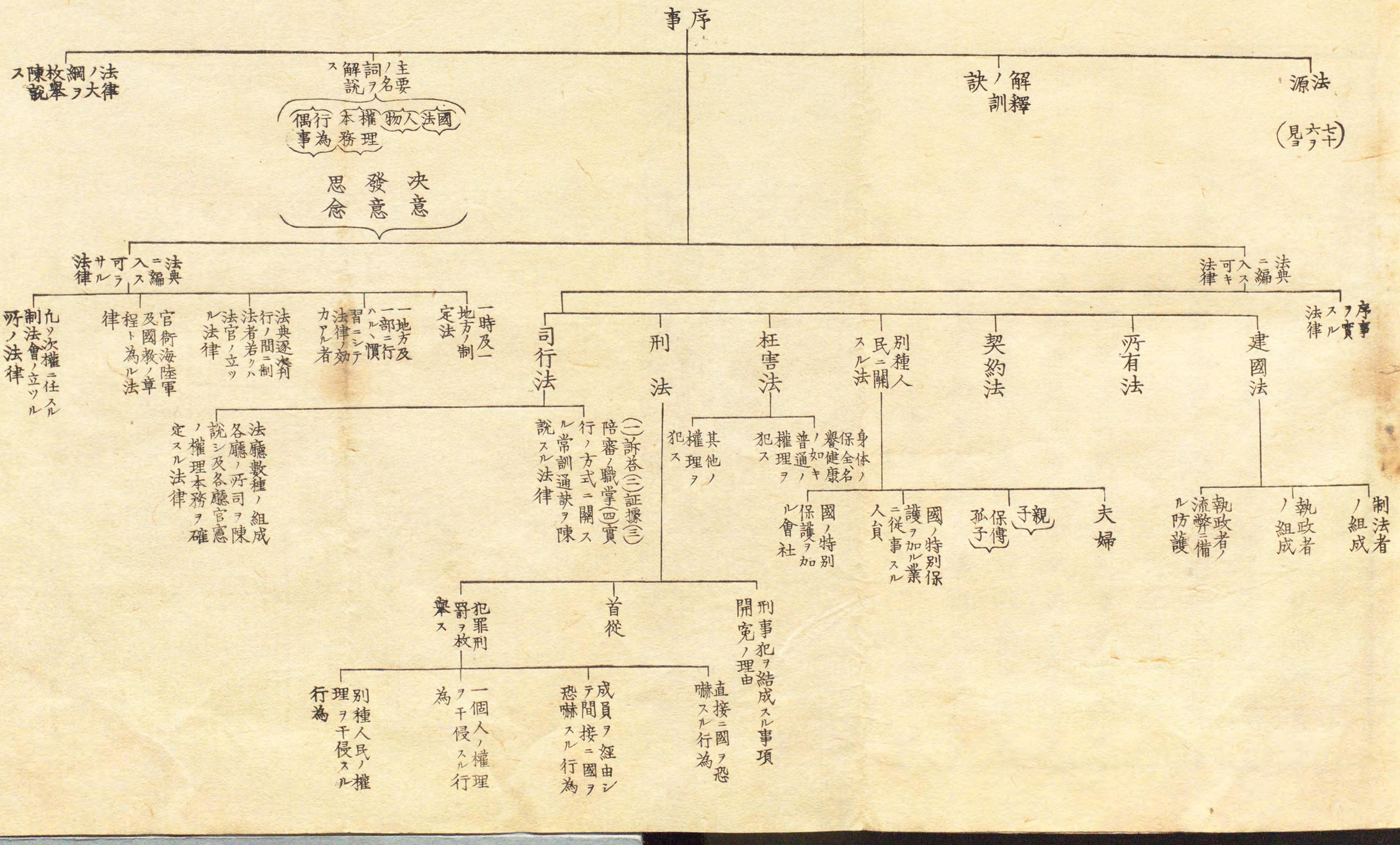
第二篇　法學ノ區域ヲ論ズ

法律ノ干涉スル事實　十三丁
國人法律ヲ制為スルノ職掌　十五丁
建國法ノ性質　十六丁
法學ノ材料　十八丁
法理ノ普通ナルヿ　十九丁
社會ノ起原ニ就キ相ヒ反スル　二十丁

說　二十丁
法律ノ大綱ハ恒常ナルヿ　二十二丁
倫理及繹思ハ法律ニ干涉セザル　三十丁
莫キヿ　二十四丁
諸國ノ交際ヲ整理スル法律　二十五丁
國際私法ハ恒常ナル條目ヲ補充スルヿ　二十六丁



今國ニ行フ可キ法律全體ノ系圖



法學要義卷之一

英國龍動　錫爾敦亞毋斯著
日本加賀　小池靖一譯

第一篇　法學近世ノ歷由及現今ノ狀態ヲ論ズ

凡ソ一科ノ學ヲ講明スルノ首端ニ方リ、其次序、宜シク其學ノ歷由ヲ先ンズヘキヤ、將タ其性質區域ヲ先ンズヘキヤ、ソノ先後ハ、常ニ決シ易カラザル所タリ、法學ノ如キハ、之ヲ講明シ盡サント欲スルヤハ、苟モ此二者ヲ闕ク可ラズ、蓋シ法

學ヲ講明スルニ須要ナル名詞アリテ、歴世ノ學士、相續デ漸次ニ其意義ヲ叩キ、之レヲシテ通語俗話ト紛淆スルヿヲ免レシム、故ニ其學士漸次ノ勉力如何ヲ詳カニセザレバ、明カニ其正義ヲ曉ルヿ能ハズ、而シテ其漸次ニ精覈ニ趣キタル名詞ノ意義ヲ詳カニセザレバ、亦其歴由如何ヲ知ルヿ能ハザルナリ、

按スルニ法學ヲ講明スルニ須要ナル名詞トハ權理、本務、國、法、人、物、等ノ如キ法學特用ノ科言ヲ謂フ故ニ此ノ名詞ノ正義ヲ詳ニスレバ、

則法學ノ性質區域亦隨テ明ナリ、

故ニ此二者ノ先後決シ難キヲ解カント欲セバ、唯自ラ斷シテ其一ヲ先ンジ、而シテ全論ヲ曉ルニ至要ナル解説ヲ、毎篇ノ間ニ挿嵌シ、篇ヲ逐テ次第ニ前篇ノ旨趣ヲ明ニシ、以テ讀者ヲシテ末篇ヲ見テ、而ル後チ首篇ノ旨趣ニ熟達セシムルニ在ルナリ、今此ノ篇ノ如キハ、法學ノ現狀ヲ畧論シ、併セテ其現狀ニ達セシ歴由ヲ掲グレバ、則法學ノ何タルヲ確言スルニ於テ、大ニ助クル所アルベキナリ、

抑英國及ヒ他國ニ於テ、法律ノ理ヲ窮メテ、之ヲ論スルノ進路ニ障碍アリ、其之ヲ梗塞惑亂スル、多少同ジカラズト雖モ、要スルニ、二樣ト為ス、第一ハ、法律ト倫理ト互ニ相混淆スル是レナリ、第二ハ總通ノ法律ト一國ノ習慣ト、互ニ相ヒ混淆スル是レナリ、第一ノ障碍ハ、後篇ニ至リ法律倫理ノ品序ヲ推究スルノ後ニ非レハ、其詳カナルヲ知ル可ラズト雖モ爰ニ其一端ヲ擧ゲン、夫レ世人ノ、權理、本務、應為、犯罪、惡心、詐偽等ノ名詞ヲ用フル者、大抵法廳ニ於テ何等ノ意義アルヤニ

注思セザルガ如シ、況ヤ法廳ノ例規（法廳ニ於テ訟獄ヲ辨理スル手續ニ依レバ、苟モ此等ノ名詞ヲ用フルトキハ、其理義、最モ精審ナルヨヲ要スルヲ辨スルヲヤ、其之ヲ用フル意旨、常ニ多クハ倫理上ノ意義ヲ以テシテ法律上ノ意義ヲ以テセズ、縱ヒ法律上ノ意義ヲ以テスルモ、亦倫理上ノ意義ト多少混淆セザルハナシ、

夫ノ旧呼漫ノ達識邃理ノ學士輩ノ、法律倫理ノ品序、及其名詞ノ品序ヲ看破スル者ト雖モ、猶ホ苟モ倫理ノ範圍ヨリ法律ヲ分離スルヲ欲セサ

ルヲ以テ、世俗ノ惑、為メニ幾許ヲ加ヘシヿ知ル可キナリ、米獨リ英人ハ然ラズ、能ク法律倫理ヲ分離シテ復タ相ヒ混ズルニ至ラザラシムルヲ得タリ、其之ヲ分離セシ方法ヲ説クハ、姑ク之ヲ後ニ讓ル、却説日耳曼ニ於テハ、理論ノ勢、彼レガ如クナルヲ以テ、法律ノ理ヲ窮メテ、之ヲ論ズルノ事ハ、遂ニ全ク倫理總論ノ一端ト為ルニ至レリ、而シテ倫理ノ論タル、素ヨリ至深至密ニシテ、人智ヲ以テ容易ニ推究ス可ラサル者ナレバ、時ニ觸レテ浮沈シ、其進歩モ亦最モ遲滯セリ、故ニ法

學モ亦隨テ浮沈遲滯シテ、獨立順行スルヿヲ得ザリシナリ、

夫レ英國ニ於テ、法學ノ曾テ本唐氏英國ノ人ニシテ近世有名ノ法學士ナリ千七百四十八年ニ生レ千八百三十二年ニ没ス時ハ、其進路、亦日耳曼ト同轍ノ危機ヲ生ゼシト雖モ、幸ニシテ其危機ヲ生セシ原由、偶〻之ヲ免カルヽノ原由トナルヲ得タリ、蓋シ本唐氏ハ、法令道教道德上ノ教訓ニシテ儒家ノ所謂五教ヲ同基教ヲ所謂十誡ノ如キ蓋此類ナリ一視シ、其ノ能ク最衆ノ人民ニ最大ノ幸福ヲ加フルヤ否ヤヲ察シテ、以テ之ガ良否ヲ判シ、以謂

ク法令ハ、國權ヲ執ル者ヨリ出デ、之ヲ犯ス者ハ、定制ヲ照ラシテ、其ノ罰ヲ受ケ、道教ハ、民間ニ行レテ、之ニ悖ル者アルモ、唯若干ノ人民、之ヲ罰スルノミニシテ、定制ノ罰アルコトナシ、其事實上ニ見ハル、者ヲ視レハ、各異ナル所アリト雖モ本ト法律、倫理其類ヲ同ジクセザルニ非ズシテ、唯僅ニ彼此程度ノ差異アルニ過キザルノミ、又道教ハ、漸ヲ以テ法令ト効力ヲ同ジクシ、或ハ更ニ之ガ効力ニ加フルコト有リ、而シテ法令モ、亦或ハ之ヲ實行セザルニ因リ、道教ト其欽弊ヲ同ジ

クスル者ナキニ非ルナリト、故ニ沐唐氏ノ論ニ據レバ其所謂道教ヲ除クトキハ、別ニ倫理ノ存スル者アラズ、而シテ倫理ノ法律ト異ナル所ハ、唯其柄ヲ執ル者ト、責罰ヲ加フルノ勢力トニ在リト為ス、是ヲ以テ恒常不易ノ分別、品序、素ト法律倫理ノ間ニ在テ存スル可キ者、湮滅シテ復タ見ル可ラス、其著目スル所、他ト表裏ノ差アリト雖モ、法學ヲシテ倫理學中ニ沈淪セシムルニ至テハ、則チ亦日耳曼學士ト異ナルコトナシ、是レ其影響ノ直接ニ及ブ所ト為ス、而シテ其ノ間接ニ及ブ

所ニ至テハ之ト相反シ、倫理ノ疆域、廢滅シテ復ク法律ト並立スル能ハザルニ至レリ、

按スルニ本邊曰ク、倫理ハ人ノ行為ヲ指導シテ、至大ノ利ヲ生セシムルニ在リ、法律モ亦其目的正ニ相ヒ同シ、但其及ブ所ノ廣狹ヲ論スレバ、則二者大ニ異ナリ、蓋シ人ノ行為ハ倫理ヲ以テ其良否ヲ判ス可ラザル者アルヿ莫シ、倫理ハ萬行ノ軌範ナリ、法律ハ然ラス、有害ノ行為ト雖モ、法律之ヲ禁スル能ハズシテ、倫理能ク之ヲ禁スル者多シ、譬ヘハ倫理法律ハ、其

中心ヲ同クシテ其輪圈ヲ異ニスル者ナリト、又曰ク、賞罰ニ四類アリ、一ニ自然ノ賞罰、二ニ倫理上ノ賞罰、三ニ政治上ノ賞罰、四ニ宗教上ノ賞罰云々、人ノ我ヲ好惡貴賤スル、我レ因テ苦樂ヲ得ル、是レヲ倫理上ノ賞罰ト為ス、執政者法律ヲ以テ苦樂ヲ我ニ加フ、是レヲ政治上ノ賞罰ト為ス云々ト、蓋シ謂フ、倫理法律ハ、並ニ害ヲ去リ、利ヲ取ルヲ目的ト為ス、而シテ人ノ我ヲ惡ムハ、我ガ惡ヲ罰スルナリ、法ノ我ヲ刑スルモ、亦我ガ惡ヲ罰スルナリ、罰ノ我ニ於

ケル異ナル所ナシ、唯罰者ノ同シカラザルノミ、故ニ法律ト倫理トハ、本ト相ヒ異ナルニ非ス、唯彼此ノ程度同シカラザルノミト、

法律ヲ既滅ノ倫理中ニ救ヒ、以テ其ノ煩累ヲ免レシムルハ、則論歩ノ及ハサルヲ得ザル所ナリ而シテ此ヲ成ス者ハ、奥斯丁氏ナレハ、之ヲ稱シテ法學ノ開宗ト為ルモ、亦敢テ不可ナルヿナキニ似タリ、然リト雖モ、凡ソ人ノ論ヲ建ルハ、唯僅ニ一世ノ人心ニ代テ之ヲ言フニ過キサルヲ以テ、其思考ヲ起サントスルモ、當時論段ノ次歩ハ、

其前ニアリテ進ムニ便宜ナル者ニ就カザルヿ能ハズ、故ニ此般ノ榮名ヲ以テ、容易ニ一人ニ許ルス可ラズ、直チニ英國ノ奥斯丁氏ハ、其才能、實ニ其事業ニ適合シ、沐唐氏ノ著書ニ通シ、論意深ク相ヒ投ゼリ、啻相ヒ投ズルノ深キノミナラズ、又隨テ沐唐氏ノ至ルニ堪ヘザル所ニ至リ、而シテ外説（外國ノ説ヲ云フ即チ日耳曼學士ノ説ノ如キ是ナリ）ノ其正路ヲ誘惑シテ法學ヲシテ倫理、性理ノ兩學中ニ溺没セシメントスル者ニ至テハ、則之ヲ舍テ用ヰズ、法律ノ良否ヲ政治上ヨリ

論シ、品行ノ善惡ヲ倫理上ヨリ判スル二、并ニ益世ヲ以テ準繩ト為サヽル可ラサルヲ會悟スル ト雖モ、益世トハ本唐氏ノ所謂最衆ノ人民ニ最大ノ幸福ヲ加フルト是レナリ 法律、倫理ヲ分離スルニ於テハ、最モ力ヲ勉メテ每ニ及バザルカ如シ、以謂ヲ法律ノ殊境ハ、自ラ一科學ノ性質ヲ存シ、森然トシテ具ラザルナシト、且羅馬法學士ノ書ヲ攻讀シ、其見ル所大ニ本唐氏ト異ニシテ、直チニ英羅兩國ノ法律ヲ照比シテ之ヲ研究シ、以テ恒常普通ノ說ヲ、法學ノ實體ト為ス可キ者ヲ提起セリ、若シ奧斯丁氏ヲシテ道

之本源在於利、ノ說（即チ益世論者流ノ說ニシテ本唐氏ハ即チ其論宗ナリ）ニ倚ルヿ、道之本源出於天、ノ說ニ倚ルヨリ甚シカラザラシメバ、必ズ日耳曼學士ノ說ヲ混用シタルヤ疑ヒ無キナリ、唯當時學問ノ進歩既ニ大ナルヲ以テ、幸ニ其識度ノ廣狹、能ク中ヲ得テ、本唐氏ノ範圍ヲ脫シテ、岡德希厥爾兩氏（併ニ日耳曼ノ學士ニテ道之本源出於天ノ說ヲ持セシ人）ノ說ニ歸セサルヿヲ得タリ、法學ノ進路ヲ障碍スル者ノ第二ハ、則總通ノ法律ト、一國ノ習慣ト相混スルニ在ルハ、既ニ前ニ端緒ヲ發セリ、夫レ法律ハ、要スルニ二途ヨリ出

ヅ、合假リニ之ヲ形容スレハ、一ハ低處ヨリ高處ニ昇リ、二ハ高處ヨリ低處ニ降ル者ト言テ可ナリ、或ハ其居ル所ノ地ニ依リ、或ハ其相ヒ値フ事情ニ依リ、或ハ其營ム所ノ職業ニ依リ、人民ノ遵守スル習慣ヨリ成ル所ノ法律ハ、即チ低處ヨリ高處ニ昇ル者ニシテ、其習慣ト其法律ノ品序ハ、後篇ヲ待テ之ヲ示サント欲ス、其全論ノ如キハ、埋内氏ノ村落論之ヲ盡シテ餘蘊ナキナリ、或ハ政治主權ヲ操ル者、（全國ヲ統治スル大政府ヲ言フ）或ハ政治次權ニ任ズル者、（地方官又ハ各衙門ノ如キヲ言フ）ノ制定スル法律

ハ、即チ高處ヨリ低處ニ降ルノ法律ナリ、而シテ法律ノ專ラ法廳ノ例規ニ由テ成ル者ノ如キモ、其法官ノ氣習ニ依リ、差異ナキニ非ズト雖モ、亦此二類ノ中ニ屬セザルハ莫シ、唯其二類ノ品序ノ定ルハ、則大抵法官ノ意ニ依テ而シテ定則ニ依ラサルノミ、此ヲ以テ之ヲ視レハ、凡ソ國法ハ、直チニ人民ヨリ出ツル者ト、直チニ政府ヨリ出ツル者トノ二類ヨリ成ル者ニシテ、而シテ其政府ヨリ出ヅル者ハ、常ニ或ハ其人民ヨリ出ツル者ヲ改更シ或ハ之ヲ限制シ、或ハ之ヲ補

遺シ、或ハ之ヲ廢棄ス、是レ萬國ノ其轍ヲ同クスル所ナリ、而シテ其ノ國政上ニ効力ヲ得ルハ、則並ニ齊シク政府ノ聽從、人民ヨリ出ル法律ハ政府ノ聽從ニ因テ効カヲ得ル威力政府ヨリ出ル法律ハ政府ノ威カニ因ラザレバ効カヲ得ズ、ニ因ラザルヲ得ザルナリ、

夫レ法律ノ類相分ルヽ、大畧此ノ如シ、而シテ其ノ人民ノ習慣ヨリ出テヽ、習慣ノ最モ浸染スルノ法律ハ、最モ特殊ノ色ヲ呈シ之ヲ他國ノ法律ノ類ヲ同クスル者ニ比スルニ、大ニ径庭アルガ如シ、此類ノ最多クシテ熾ニ行ルヽ國ニ於テ

ハ、其ノ他國ノ法律ト、相似ザル益〻甚シクシテ、遂ニ懸隔異類ノ如キニ至ルハ、言ヲ待タズシテ知ルヽ可シ、英國ニ於テハ、沐塘氏ノ時ニ至ルマデ佛國ニ於テハ革命ニ至ルマテ、法律ノ景狀、皆此ノ如シ、日耳漫ノ如キハ、現今ニ至ルマテ猶或ハ然ル者アリ、是レ法學ノ近世ニ及テ、僅ニ生長スル所以ナリ、今英國ノ事情ヲ舉テ之ヲ論ズ、他國ノ事情、亦推テ知ルヽ可キナリ、

蓋シ嘗テ沐塘氏ノ時ニ至ルマデ英國法律ノ景狀如何ヲ討ヌル、法官、狀師、制法者ヨリ衆民ニ

至ルマデ、之ニ黙從盲順シテ、以テ事理ノ至リ盡クセル者ト為シ、其古來因襲スル所ノ慣習法ノ若キニ至テハ、最モ之ヲ貴ベリ、然ルニ其實、或ハ常規ニ合ハザル者アリ、或ハ屢矛盾スル者アリ、或ハ殘虐苛刻ナル者アリ、或ハ不當ノ格式アリテ、若シ人情自ラ之ニ黙從盲順シテ、以テ至善至美ト為ル能ハザルトキハ、其當然精確ナル者ヲ撰テ、之ヲ法律ニ歸シ、而シテ狀師者流ノ性情、已ニ其務ニ化セラレタル者ト雖モ、異論スル所アル者ニ至テハ、之ヲ解釋ノ誤謬ニ依ルト做シテ、其

難ヲ解キタリ、蓋シ英國ハ古來慣習法熾ニ行レ其廣大ナル、獨リ政體ヲ組成スルノミナラズ、人民ノ交際ヨリ、一家ノ行事ニ至ルマデ、行ハレザル所ナシ、地法、刑法、及ヒ州郡、府邑、寺領地ノ制度ノ若キニ至テハ、殊ニ其ノ甚シキヲ見ル、故ニ一大變亂ノ勃起シテ國基ヲ危クスルニ非ルヨリハ、其法律ヲ一新スル能ハザル者ノ如クナリキ、冰唐氏ノ將ニ出デントスルニ當テ、英國ノ法律ハ業既ニ大ニ改更セリ、其改更ノ由テ來ル所ヲ討ヌルニ、蓋シ二路アリ、一ハ商法ノ大ニ開クル

是レナリ、其ノ英國法律ヲ一新スル、譬ヘハ最佳ノ規模ニ倣ヒ、極メテ壯麗ナル翼屋ヲ數歳ノ間ニ建築シテ、舊屋ニ添ヘタルガ如シ、二ハ義法廳（コルト、オフ、イクイティ）ノ裁判權限ハ、遽カニ擴張スル是レナリ、而シテ古制舊俗ノ猶改メザル者アリ、本唐（ベンタム）氏出ツルニ及ンデ、之ヲ破ルニ正理ヲ以テス、是ニ於テ其存スルニ或ハ古キガ故ヲ以テシ、或ハ歷由知ル可ラザルノ故ヲ以テシ、或ハ繩墨ヲ守テ事ヲ辨ズルニ便宜ナルノ故ヲ以テスル者、皆自ラ理ヲ派セザルヿヲ得サルニ至ル、是レ本唐（ベンタム）氏ノ成ス所

ナリ、是ヲ推シテ之ヲ觀ルニ、本唐氏ノ意、蓋シ以謂ク各國ノ法律ハ繹思（ロシカルプリンシプル）ノ定則ニ從ヒ倫理（イセカルフリン）ノ通義ニ據ラサル莫シ英國ノ法律ノ如キハ、此レト異ニシテ、公義ニ悖ル者多シ、是レ他ナシ、彼二者ヲ忘却スルニ由ル、是レ改メ正サヾル可ラザルナリト、

是ニ至テ法學ノ端緒ヲ開クノ第一着ハ、此學ノ何タルヲ認ムルニ至大ノ障碍ヲ為ス者ニ因リ、反テ便宜ヲ得タリト謂フ可シ、蓋シ國法ト人民慣行スル所ノ定規ト相ヒ混淆スルハ、各國古法

舊制ノ殊ニ免レサル所ナリ、而シテ英國ノ如キハ、數百年間、外國ノ侵奪ヲ被ムラズ、常ニ白ラ島國ノ習慣ヲ固守シ、之ヲ重ズルヿ神明ヲ虔敬スルガ如シ、故ニ法律ヲ其屬從（習慣ハ法律ノ属從ス）ノ煩累中ニ救フハ、此國ニ在テ最モ難キ所ト為ス、

且民法（羅馬國府邑ノ法律ニシテ通常羅馬律ト称スル者ヲ云、シビルロウ）教法（羅馬教會教王ノ立ツル所ノ法律ニシテ、教王グレゴレイハ英公ニス、カノニロウ）第九世ノ時、編纂類集シテ世ニ國ノ法廳ニ於テ力ヲ有スルヿ極メテ薄ク、就中、常法廳（コモンラウコルト）ニ於テ其法義（法律ノ第一義即チ其根抵フリンシプル）ヲ為ス所ノ極旨ヲ云フヲ引テ之ヲ論スルハ、最モ抗辨ヲ被ムレリ、是レ

又英國ノ法律ト、大陸諸國ノ法律ト司行ノ際、相異ナル所ナリ、是ヲ以テ、其政體ハ進歩休マズシテ、遥カニ諸國ノ上ニ出ルト雖モ、其法律ハ反テ凝滞シテ動カズ、慘刻ノ弊除カザルヿ久シ、然レモ光燿ノ一タビ暗處ヲ射ルヤ、其明、猶洪水ノ滔々トシテ到ラサル所ナキガ如シ、冰唐氏ノ一タビ出ツルヤ、英國ノ事情、其法律ヲシテ凝滞進マザラシムル者皆破レザルヿ無クシテ、反テ偶、其一新ヲ促カスニ至レリ、蓋シ法學ヲ創立スルニ、本唐氏ノ力、果シテ幾許ニ居ルヤ、其稟性ノ多能

ナル、啻法律ノ正理ニ合ハザル所ヲ發露セレノミナラズ、亦廣ク國政ノ本旨ヲ改正センコヲ試ミシヲ以テ、其法學ヲ草創スルノ功ヲ囑測スルコ甚タ難シ、然レトモ其ノ正理ヲ派シテ、法律ノ詞法（法律必要ノ名詞ヲ用フル方法）及ヒ綱目ヲ改正シタルヲ以テ之ヲ論スレハ、實ニ奥斯丁（オスチン）氏ノ先驅ナリ、而シテ法學ヲ創立スルノ功ハ固ヨリ奥斯丁氏ニ歸セサル可ラスト雖モ、若シ先キニ本唐（ベンタム）氏ノ出デ、彼ノ妄用ト、知者ヲ為シテ瑣事ニ區々スルノ弊ヲ、英國ノ法律ニ觀醜（マネ）ヲ與フル者ヲ排斥シテ、

頗ル激烈ヲ極ムル微ケレバ、何ヲ以テ此學ノ當時ニ創立スルヲ見ンヤ、

羅馬律ヲ講究スルコトノ、英國ニ於テ興起セシハ、亦法學開源ノ最大ナル者ノ一ニシテ、爰ニ遺漏ス可ラザル者ト為ス、此講究ノ興起スルハ、奥斯丁氏ガ、不朽ノ言ヲ以テ鼓奬シ、理内（ヲイト）氏ガ博識、史才ヲ兼ヌルノ振作スル所ナリ、

羅馬律ノ講究、興起スルヨリ以來、法律ノ論、既已ニ其影響ニ感應スルノミナラス、此後モ亦將ニ益之ニ感應スルアラントス、顧フニ其影響ノ嚮

ノ所二路アリ、一ハ英國ノ古來相傳スル法義ト、羅馬律ノ綱目詞法ト、彼此照比スルニ因リ、條理ヲ尋究スルヿ、益精審ニ至ル是レナリ、夫レ英羅ノ兩律ハ、歴史上ヨリ之ヲ論ズルモ、倫理上ヨリ之ヲ論スルモ、其相ヒ異ナルヤ甚シト雖ドモ、唯之ヲ照讀スルヿヲ慣習スルモ、亦必ズ相ヒ符シテ、以テ法學ノ原理ト為ス可キ者ヲ、其間ニ睇出スルヿナキヲ得ズ、況シヤ用意周密ニスルニ於テヲヤ、二ハ歴史上ニ屬スルノ事跡是レナリ、夫レ古代ノ事跡ヲ穿鑿セント欲シテ、以テ羅馬律ヲ

講究スレバ、則凡ソ一國ノ法律ト、其文化百般ノ景狀トハ、互ニ相ヒ感應スルヿヲ益知リ、以テ夫ノ法學ノ原理ト為ス可キ者、益明カナルヲ見ン、加之近代ニ至リ、萬國ノ上世、草昧ノ運ニ屬スル時ノ習俗ヲ通究シ、之ヲ彼此照考スルヿ、大ニ行ハルヽニ因リ、愈法學ノ原理ト為ス可キ者ヲ知ルニ至レリ、唯其究探スルノ順序、或ハ倉卒ニ失シ、彼此參酌シテ立ツル所ノ通理、或ハ皮相速了ニ流ルヽ、無シト謂フ可ラズト雖モ、今世ノ學士ガ活發ナル精神ヲ以テ、汲々トシテ究探スル所

ヲ見ルニ、草昧ノ運ニ屬スル蠻人ト雖モ、所有物、世襲物、遺産處置、繼承、婚姻、及ヒ治罪訴訟ノ諸法、亦其跡ヲ存スルアリ、此ヲ以テ之ヲ視レハ則法學ノ以テ立タザル可ラザルヿ、益〻以テ信スルニ足レリ、嗚呼今日好苗ヲ得ル、已ニ此ノ如シ、後來ノ結實、豈ニ期ス可カラザランヤ、而シテ是レ皆始メ羅馬律ヲ講究シ、討論ノ精微ヲ極ムルニ由ル、然ラズンバ則焉ゾ今日此ニ達スルヲ得ンヤ、右ノ如ク論ジ來ルトキハ、或ハ羅馬律ヲ尊重スル稍其實ニ過クルノ弊無シト為ズ、故ニ茲ニ一言

ノ警戒ヲ掲ゲテ、豫メ之ヲ防グモ、亦無用ニ屬ス可ラズ、夫レ苟モ法律家タラント欲スル者、其學ヲ修ムルニ羅馬律ヲ講究スルヲ須要トスル所以ハ、徒ニ古代ノ異事ヲ知ラント欲スルノ念ヲ饗シ、文學ヲ樂ムノ意ヲ滿スノ為メニ非ズシテ、唯今世ノ法律ヲ學ヒ、其理ヲ通窮スルノ大目的ニ達スルノ一助ト為スニ過キズ、故ニ羅馬律ヲ修ムルニ、窮理ノ精神ヲ以テシ、其體式、綱目ニ貫通スルヲ期シ、而シテ前軌ノ模倣ス可キ者ヲ、思惟スルノ卑陋ニ陷ラザレハ可ナリ、蓋シ外國ノ

G22567

法律、及ヒ國際法ハ、羅馬律ニ由ラザレバ、之ニ通スルヿ能ハズ、外國ノ法律、及ビ國際法ニ通セザレハ、法學ノ完全ニシテ、世界到ル處トシテ適ハザルナキ者ヲ開成スルヿ能ハザルナリ、

近世ニ至リ、往々法典ヲ編次スルノ事、行ルヽニ因リ、法律ヲ學デ、其理ヲ通窮スルヿ大ニ進ミ、人ヲシテ益〻其理ヲ窮ムルノ已ム可ラザルヲ知ラシム、就中、英國ノ統轄スル人民ノ為メニ着手セル法典編次ノ如キハ、最モ然リト為ス、試ニ英領印度ノ制法史ヲ觀レバ、最モ之ヲ徴ス可シ、近來

明達ノ法學士、相ヒ續テ印度ニ至リ、其法律ヲ類集編次シテ、之ヲ印行ス、其書ヲ視ルニ、本國ノ法律ト相ヒ符スル者多クシテ、本國大ニ其反響ニ感應セリ、夫レ英人ノ印度ニ至ル者ハ、能ク其法律ヲ類集編次スル此ノ如シ、而シテ本國ノ法律ニ至テハ、反テ或ハ類集編次スル能ハズト云ヒ或ハ甚タ難シト云フ、其レ真ニ障碍アリテ、其法律ヲ類集編次ス可ラザルカ、抑私營スル人、之ヲ沮遏スルニ非ルカ、將タ為政家ノ怠慢ニシテ、之ヲ果行セザルニ非ザルカ、是レ自然ニ起ラザル

ヲ得ザル疑問ナリ、

按スルニ法典ヲ編次スルトハ、綱目ノ秩序ヲ正クシ、條ヲ逐ヒ件ニ隨テ、法律ヲ類纂シ、森然トシテ具備セザル者ナカラシムルヲ謂フ、看者ノ搜索ニ便シ、對照ヲ易クスル、コレニ若クナシ、故ニ法典ノ成ル愈多ケレバ、則各國ノ法律ヲ照讀シテ、其理ヲ窮ムルヿ愈易シ、是レ法典編次ノ、法學ヲ進歩セシムル所以ナリ、抑方今各國ノ交際益、盛ナルニ赴クヤ、其ノ法學ノ進歩ヲ促ス固ヨリ一端ニ非ス、則輓近、國際公

私兩法、并ニ前進シタルヲ見テ、以テ其速歩ノ勢アルヲ徵スルニ足レリ、夫レ各國ノ交誼、益、親密ヲ加フルニ至レハ、一定ノ法典ヲ作リテ、以テ其權理本務ヲ定限セザル可ラズ、其獨リ戰時ニ切要ナルノミナラズ、平時ト雖モ、亦少ク可カラザルヲ以テナリ、而シテ之ヲ編次スル、須ラク輿論ノ歸スル所ノ定理ニ據リテ、其綱目ヲ正クシ、其詞法ヲ詳ニシ、以テ交際ノ至道ヲ明ニスベシ、故ニ其定理ハ、諸國現行ノ法律ヲ照較シテ、其中ニ索メザル可ラザルナリ、

從來羅馬律ハ、偶國際法中ニ卓越ノ地位ヲ占ムルヲ以テ、世概ネ世界通行ノ法律ハ、要、比較斟酌ヨリ出デザル可ラザルヿヲ知ル者少シ、今ヤ國際法、益開ケテ益精シク、而シテ交易互助ノ事、多ク之ニ依テ行ハル、而シテ是レ羅馬律中ニ無キ所ナリ、故ニ萬國ノ所急所欲ニ隨ヒ、公許ノ新法ヲ定メザル可ラズ、而シテ此ノ新法ハ、則比較斟酌ヨリ出デザル可ラザル者ニシテ、法學大成ノ後ニ非レバ、勉メテ之ヲ作ルモ、精密ヲ盡ス能ハザルナリ、夫ノ國際私法、或ハ法律ノ抵牾ト稱スル者ノ如キハ、各國ノ人民、或ハ旅行シ、或ハ通商シ、或ハ駐留シ、或ハ植民シテ、彼我互ニ相ヒ交ルニ因テ生ズル者ナレハ、益世及公義ノ定理、萬國ノ人民、及ヒ法廳ノ尊重スル者ヲ睹出シテ、其抵牾スル所ヲ協合スルハ、亦方今ノ急務ト為ス、而シテ此定理ハ、萬法ノ據ル所ノ、政治交誼ノ大本、理ニ合スル者ヲ究索シテ、以テ之ガ根據ト為サバレバ、其功ヲ奏スルヲ期ス可ラズ、若シ夫レ此大本ヲ究索セズ、而シテ所謂法律ノ抵牾ヲ協合セント欲スレバ、則常ニ其國民ノ利害ヲ謀リ、愛

憎ニ隨フノ弊ヲ免レズ、是ヲ以テ今ニ至ルマデ、各國ノ國際私法、殊異極マリナク、法義例規一ニ歸セズ、而シテ倫理上ノ權理未ダ同等ヲ得ルニ至ラザルナリ、

第二編

法學ノ區域ヲ論ス

法學ハ何等ノ材料ヲ以テ成ルヤヲ詳ニセントト欲セバ、宜シク其干渉スル所ノ事實ニ就キ其至原至素ナル者ヲ求テ、之ヲ看一看スベシ、其事實ノ至原至素ナル者ヲ求メントト欲セバ、宜シク人民自カラ憤勵シテ草創百般ノ辛苦艱難ヲ經過シ、以テ漸ク或ハ自恃シテ立チ、或ハ獨立ノ體ヲ得ルト雖モ、交易互親ノ機設、猶未ダ具備繁密ニ至ラザル國ノ事情ヲ觀ルベシ、蓋シ此等ノ國ハ

政體、或ハ君主政治ニ偏シ、或ハ貴族合治ニ偏シ、或ハ衆庶為政ニ偏シ、其趣固ヨリ異同アリ（モナルキイ／アリストクラシイ／デモクラシイ）ナキ能ハズト雖モ、亦幾許カ確立シタル政府無カル可ラザルヤ必ヤリ、夫レ國基已ニ定リテ、獨立自賴スルハ、則農耕ノ事先ツ行ハルヽニ非ズンバ、得可ラズ、農耕ノ事ハ、則所有ノ權理已ニ定ルニ非ザレバ行ハル可ラズ、且ツ經綸ノ道已ニ此ノ如クナレハ、則分業ノ道、先ツ開クル無キヲ得ズ、分業ノ道ノ開クルハ、則契約ヲ結フノ習慣、至簡至素ト雖モ亦已ニ行ハルヽヲ察ス可キ也、加之交際

ノ開クル此ノ如キニ至ルハ、則家族相親ムノ道、先ツ開テ之ガ根基ト為ルニ非ザレバ能ハズ、故ニ婚媾ノ事行ハレテ、夫婦、親子、兄弟、姊妹、甥姪等ノ倫叙、己ニ自ラ存スルヲ知ル可シ、然リト雖モ人民ノ進歩ニ後クルヽ者ハ、制御シ易カラズシテ、時ニ兇暴ヲ逞フシ、以テ社會ノ存立命脈ヲ危クスル者アリ、是ニ於テ社會ノ安寧ヲ欲スル者ハ、其兇暴ノ行為ヲ恐怖憎惡シ、之ヲ名ケテ犯罪ト云フ、

今論ズル所ノ事實ハ、各國ノ進路ニ於テ必ズ生

出スル者ニシテ、凡常大畧ナルハ固ヨリ論無キナリ、然リト雖ヒ此事實タル、時代ノ古今ヲ問ハズ、邦國ノ異同ヲ論セス、恒常普通、處トシテ有ラザル莫ク、時トシテ行ハレザル莫シ故ニ法學上ヨリ之ヲ論ズレバ、則其ノ以テ成ル所ノ原材ニシテ、實ニ至要至切ノ者ト為ス、今此事實ヲ總論スレバ、則一ニハ人民相今レテ、或ハ治者被治者ト為リ、或ハ夫婦トナリ、或ハ親子トナリ、或ハ兄弟トナリ、或ハ姉妹トナリ、其他、姻親、血脈親トナリテ、互ニ倫叙ヲ其間ニ存スルヲ知ル可シ、二ニ

ハ全國ニ屬スルノ物（資生料）ニ於テ、彼我所有ノ別ナキ能ハズシテ、或ハ我レ之ヲ有シ、或ハ彼レ之ヲ有ス抑此物ヲ有スルノ權理ハ、則彼我ノ以テ契約ヲ結ブヲ得ル所ニシテ、或ハ強迫、或ハ詐偽ヲ以テ我所有ヲ奪フ者アレバ、則之ヲ防遏セザル可ラズ、然ラズンバ社會何ニ由テ立ツヿヲ得ン、故ニ又其所為ヲ名テ犯罪ト云フ、總シテ今舉示ス所ノ事實ヲ論ズルニ、着目スル所ヲ今テ二ト為ス、曰ク人民ノ外部ニ屬スル者、即チ其行為、曰ク内部ニ屬スル者、即チ其意思、而

シテ行為ハ社會ノ力ヲ以テ之レヲ制シ、寛猛刑罰類ヲ分ツ等差刑罰等ヲ對酌スルヲ謂フ亦詳ニ定ムルヿヲ得可シト雖モ獨リ意思ニ至テハ、則社會ノ直接ニ力ヲ施ス其強キヲ極ムルモ、其効驗最モ薄ク、且ツ朝變暮換一定スルヿ無シ、而シテ社會ノ力ノ人民ノ行為ニ及ブ所ハ、則法律ノ區域ニシテ、其力ノ意思ニ及ブ所ハ則倫理ノ區域ナリ、而シテ法律倫理ノ品序ノ如キハ、次篇ニ至テ之ヲ論ズ可シ、因テ今姑ラク左ノ言ヲ以テ結ト為ス、曰ク凡ソ國ノ勢力ハ、全社（全社會ヲ畧シ簡ニ從フ以下之ニ倣ヘト）成員（社會ヲ成ス所ノ各人ト、互ニ其行為ニ相ト及ヲ云フ以下之ニ從ヘ）ボス所ノ影響ニ在リ、曰ク其行為、或ハ物即チ資生料ニ渉ル者アリ、或ハ之ニ渉ラザル者アリ、曰ク全社ト成員ト、實際ノ倫叙ハ、則其國、當時ノ政體ニ依テ異同アルナリト、何レノ時ヲ論ゼス、凡ソ全社ノ代理タル執政者ニ、成員ノ及ボス所ノ影響ハ、一ハ或ハ自知シ或ハ知ラス識ラス、其政體ニ隨テ、執政者ヲ撰ムニ於テ見、二ハ或ハ自知シ或ハ知ラズ識ラズ、執政者ヲ始終制限シ、以テ其權限ヲ定ムルニ於テ見

ルナリ、而シテ執政者ノ影響ヲ成員ニ及ボスハ、管理ト法律ノ兩途ニ由ル、即チ臨機ノ命令ト常則ニ由ル也、

夫レ執政者ガ臨機ノ命令ヲ發スル境域ノ廣狹ハ、上ニ端緒ヲ發セシガ如ク、必ス執政者ト國ノ成員トノ倫叙、實際如何ニ依テ定マル者ト為ス、而シテ其境域ハ、實際ニ臨デハ之レガ經界ヲ立ツル、頗ル精密ナルヲ得可ク且ツ之レヲ擴張シ、或ハ之レヲ保守スルニ干渉スル者ノ如キハ、自ラ其心裏ニ於テ、之ヲ推測ス可シト雖モ、言語ヲ

以テ之ヲ定メント欲スルモ、決シテ精密ナルヿ能ハザルナリ、常則ハ政府ノ賴テ其本務ヲ盡ス所以ニシテ、管理ノ境域ヲ定ムルハ則其一科ニ屬シ、所謂建國法（コンステチユウシヨン）ノ大部分ヲ成ス者ナリ、但已ニ政府ノ賴テ其本分ヲ盡ス所以ノ常則ヲ稱シテ、法ト云ヒ、而シテ政府ノ自由ヲ規畫スル所以ノ者（建國法）ヲ稱シテ、亦法ト云フトキハ、則法字ノ意義、兩端ニ分レテ一定スル所ナキニ似タリ、然リト雖モ是レ固ヨリ瑣事ニシテ、實地ニ於テ緊切ト為サズ、故ニ深ク論スルヲ要セザルナリ、唯凡ソ

執政者ノ自由ヲ規畫スル所以ノ者アリ、而シテ其經界ハ條款ヲ立テ以テ幾許カ精密ニ之ヲ定言スルヲ得可キヨヲ明ニセバ足レリ、其條款ノ法廳ニ於テ習熟解釋シテ實行セラルヽヲ得ル者ハ、其性質ノ要ヲ論ズルニ、執政者ノ立テヽ人民ノ行為ヲ導ク所以ノ常則ト、都テ異ナル所ナキナリ、常則即チ法律ノ條目ハ社會ノカヲ以テ理治ス可キ事件ニシテ、例ヘバ、家事ノ中ニ就キ、外部ノ所為、及ヒ公然ノ禮儀ノ如キ所有ノ保全ノ如キ、各個自由ノ保護ノ如キ、契約ヲ實踐スル

ガ如キ犯罪ト稱ス可キ強暴放肆ヲ防遏スルガ如キ是レナリ、

夫レ是等ノ事件ヲ理治スルニ、其法能ク良正ニシテ、實効ヲ奏スルノ利タルハ、社會ノ創立未ダ久シカラザル時ト雖モ、人民ノ得テ了知スル所ニシテ、其前進シテ智識衆ニ勝レ、或ハ國變ヲ經歷シテ、政務ヲ擔當スル者ノ如キハ則尤モ其利タルヲ知ル、唯是等ノ事件、其注意ヲ蒙ル、時世ニ隨テ偏厚偏薄ナキ能ハズ、其注意スル所、或ハ所有ノ保全ニ厚クシテ、身體ノ保全ニ薄ク、或ハ身

體ノ保全ニ厚クシテ、所有ノ保全ニ薄ク、且刑事ト民事ヲ分類スルモ、定例ナクシテ整齊ナラズ、甚シキハ刑事犯ト宗教ニ係ハル犯罪ヲ混同スルニ至ル、或ハ治者ノ無道ニシテ貪慾暗愚ナルヤ、時ニ此法ヲ重クシ、時ニ彼法ヲ軽クス、或ハ人民、法律ノ簡約ナルヲ以テ若シム時アレバ、亦繁密ナルニ因テ困スル時アリ、或ハ人民ノ甲部、法律ニ由テ得失スル時アレバ、亦乙部ノ得失スル時アリ、是レ萬國ノ曾テ免レザル所ニシテ、其害タル實ニ大ナリ、故ニ凡ソ國民ノ盤根ヲ避ケズ、

錯節ヲ厭ハズ、漸ク其進路ヲ啓開シ、終ニ良正ノ法律ヲ立テ、自知シテ政治ニ干與スルノ境域ニ達スルハ、外ニ其因緣ノ存スルアリテ、固ヨリ彼惡政弊法ノ與ル所ニ非ルナリ、此ノ如キ國ニ於テハ、人民ノ膽氣常ニ剛毅ニシテ、治者ノ腦精、亦聰慧ナリ、而シテ法律漸ク各個ノ自由ヲ振起スル者ヲ採テ、以テ之ヲ戕賊スル者ヲ去リ、政治ノ區域ヲ規畫シテ、以テ政府ハ人民ノ幸福ヲ進達スル所以ノ設置ニシテ、而シテ全國ヲ犧牲ニシテ、一夥ノ人衆ニ供スル所以ノ機關ニ非ルヲ明

ニセリ、

今説ク所ハ、專ラ理論ニ依テ、萬國普通ノ事實ヲ擧グル者ニシテ、姑ク斷シテ眞カリトシ為シ、敢テ一々其徵證ヲ引カサルナリ、然リト雖モ若シ之ヲ照スニ、或ハ古史ヲ以テシ、或ハ歷遊者ノ紀行ヲ以テシ、或ハ往昔ノ律典ヲ以テシ、或ハ文化最モ上進シタル歐洲諸國ノ設置ヲ以テセバ、輙チ此論ハ、人性ニ本ヅク者ニシテ、歷々其徵證アルヲ知ラム、是ヲ以テ今説ク所ノ事實ハ、則恒常普通ニシテ、時トシテ行ハレザル莫ク、處トシテ有ラ

ザル莫ク、法學ノ柱礎ヲ為ス者ナレバ固ヨリ輕忽ニス可ラザルナリ、

抑法學ハ倫理學ト其位ヲ同クシ、政治學ニ從タル者ニシテ、倫理政治ノ兩學トハ復自ラ別アリ、其以テ成ル所ノ材料ハ首トシテ左ノ三件ヲ開陳スルニ在リ、

〔第一〕凡ソ人間社會ニ切要ナル設置、政府ノ用ヰテ社會ノ目的ヲ達スル所以ノ者、

〔第二〕法律、即チ政府ガ行為ノ常則ヲ條列明示スル者ノ性質景狀及限界、

〔第三〕法律ニ附屬スル者、即言辭、解釋、詞法、及制法方畧、*

此三件ノ材料ハ、之ヲ精撿密査スレバ、其成分ノ恒常普通ナル、猶人性ノ古今萬國相同ジキカ如クナラム、故ニ丁寧反覆之ヲ推究シ、中ニ就テ其唯一國ノ特意ヨリ成リテ、他邦ニ公通ゼサル者ハ、之レヲ除テ論ゼザレバ、則餘マス所ノ者ハ是レ邦國ノ異同ヲ問ハズ、法律ノ生熟ヲ擇マズ、東西ノ別ヲ論ゼズ、古今ノ差ニ拘ハラズ、往ク處トシテ通ゼザルヿ莫カル可キナリ、

此恒常普通ナル者ハ、世以テ倫理ニアリト為ルハ、大抵皆然リ、夫ノ政治ノ如キハ、其事繽紛極リナキニ由リ變化測ル可ラズト雖モ、近世ニ至リテハ益〻以テ其恒常普通ノ性質ヲ具スルト為ス、然ルニ獨リ法律ニ至テハ、則輓近ニ迄ルマデ、朝變暮易、曾テ常ト為ス可キ者無シト為ス、孟的斯鳩、根的（并ニ佛國ノ學士ノ如キト雖モ、亦萬國ノ法律、變易極ラズシテ常態ナク、放肆專横ニシテ、偏頗愛憎ノ熾シナルヲ言ヘリ、蓋シ世皆以謂ラク、政府ハ本ト或ハ强暴ニ由リ、或ハ偶然ノ事變ニ由テ

創建スル者ナレバ、其法ヲ立テ律ヲ設クル皆私ヲ營デ國ノ為メニ謀ラズ、是レ其本色ノ掩フ可ラザル者ナリト、又以謂ク社會凡百ノ設置ハ、威力、其根柢ヲ為ス、而シテ威力ノ方嚮ハ、縱情放行ニ依テ變遷ス、各國皆然リト、殊ニ知ラス縱情放行ハ、唯偶然ノ事變而已、秩序不錯ハ、一定ノ常勢ナルヿヲ、

蓋シ社會創建ノ如何ヲ尋思スルニ、姑ク其當否ヲ置テ之ヲ論ゼザレバ、則以テ二說ヲ得可シ其說ノ一ニ從ヘバ、則法學ノ立タザル可ラサル所

以ノ理ヲ知ル可シト雖モ、一ハ則此學ノ立ツ所以ヲ見ルヿ能ハズ、其一ニ曰ク、凡ソ人ハ素ト獨立不羈ニシテ、自ラ恃ミ自ラ重シス、然レドモ其事變ヲ經歷スルニ及デ、始メテ各人ノ最大幸福ハ、獨リ戮力共為ニ由テ得可キヿヲ發明ス、是ニ於テ合シテハ、則團ヲ成シ、分レテハ則相ヒ拒ム、是レ一國社會ノ組成シ、及ビ舉動スル所以ナリ、其戮力共為ハ、體制一ナラズト雖モ、政府立チ、所有ノ權理定リ、家々團ヲ成シ、契約相ヒ結ブカ如キハ、則其最モ大ニシテ最モ著キモノナリト、

此説ニ從ヘバ、則右ノ事實政府立以下ノ數事ヲ指スハ唯其ノ便益ト為ル所ノ目的ヲ達スル所以ノ方畧ナルニ過ギザルナリ、夫レ唯方畧ナレバ、則之ヲ千變萬更スルモ、亦不可ト為サズ、或ハ全ク此ヲ廢棄シテ新タニ方畧ヲ設為スルモ、亦妨ゲ無ル可シ、而シテ其新設ノ方畧、猶拙陋ニ失シテ、以テ充今セザル所アレバ、又更ニ善美ノ者ヲ撰ミ假令ヒ未ダ其例アラザル者ト雖モ、亦此ヲ設テ彼ニ代フ可キ也、而シテ其方畧ヲ設為シテ、其目的ニ達スル所以ノ機關ハ、則威力ハ、法律ノ體ヲ假ル

者ナリ、之ヲ要スルニ社會中ノ強者ハ、弱者ニ逼リ、之ヲシテ其政治ハ其體ニ從ヒ、其所有ノ權理ハ其類ヲ認メ、其家事ハ其規條ヲ守リ、其交市貿易ハ其章程ニ遵ハシム、夫レ此ノ如ク百事皆法律ヲ以テ、其規程ヲ定メ、其人民ニ便宜ナル者多クシテ、人民復タ法律ノ抑壓ヲ覺ヘズ而シテ法律ヲ維持スル威力モ殆ンド施ス所ナケレバ、則真ニ至幸ト謂フ可シ、然レ*此説ニ據レバ、社會ノ構造ヲ創立保持スルハ、則職トシテ威力ニ之レ由ル者ナレバ、僅ニ狹少ノ意義ヲ以テスレバ、

則チ法學存スルト謂フ可シト雖モ至大ノ意義ニ從ヘバ、則其立ツヿヲ見ル能ハズ、到底社會ノ設置ハ皆法律ノ創立スル所ナレバ、僅ニ法律ノ影タルニ過ギスシテ、夫ノ動カス可ラザル設置ノ、法律ヲルテ確定シタル性質ヲ得セシムル者ノ如キハ、則絶テ有ルヿ無キナリ、此ト相反スル説ハ、則曰ク凡ソ社會ハ、人民相爭テ、各自ノ幸福ヲ進メントス欲スルヨリ、至良ノ方法ニ倣テ、互ニ相ヒ團結スルニ由テ始テ組成スル者ニ非ズシテ本ト小團結ノ相ヒ互ニ其働キ

ヲ及ボス者アリ之レニ由リテ以テ集成シ、始ヨリ終ニ至ルマデ存シテ亡ビザル活機ナリ、而シテ家團、財産ノ權理、政府ハ、則其原體本徴ニシテ、共ニ戮力共為ノ事行ハルヽニ非ザレバ、則以テ立ツヿ能ハザル者ナリ、但其ノ孰カ先ニ立チ孰カ後チニ立ツヲ論ズルハ、最モ難キ所ナレバ、寧ロ三者一タビ立テ、國コヽニ成ルト謂ハヽ、則允當ト為ス、三者立チ國已ニ成リ而シテ契約ノ事以テ漸ク行ハル可シ、此ヲ以テ之ヲ觀レバ、則國ノ根基タル設置ハ、其國始メテ成ルノ時ニ當テ

已ニ定ルヲ知ル可キナリ、而シテ上世ニ於テハ、政府隨意ニ事ヲ行フ、多クハ現今ノ所謂管理臨機命令スルヲ云フ ニ類シテ、曾テ法律ト稱ス可キ者アラザルナリ、故ニ設置ノ已ニ當時ニ存スル者ハ、法律ヲ待テ立ツ者ニ非ルナリ、抑法律ハ其始メ未タ成熟セズシテ、尚ホ慣習ノ態ヲ存スル時ト雖モ、亦國ヲ組成スル者ノ一ニ居リ、以テ社會ノ設置ヲ整理スル者タルヤ疑ヒ無シト雖モ、然レ𪜈法律ヲ以テ其設置ノ父母ト云ヒ、保護者ト稱ス可ラス、唯世ヲ閱シ時ヲ歷ルニ隨ヒ、其漸ク家團、所有ノ權理、百業貿易ノ關係、及政府、ヲ保持スルニ至リ、而シテ其功用極メテ大ナリ、彼文化開進シタル國ノ若キニ至テハ、是等ノ設置ヲ整理スルニ、法律其第一ニ居ル、是レ世ノ常論、社會凡百ノ設置ヲ以テ、法律ノ隨意ニ創立スル所ト為シ、而シテ其存亡ハ、獨リ威力ニ依ルト為ス所以ナリ、

夫レ社會ノ活機ハ、何レノ國ヲ論ゼズ、自ラ其巨樞洪軸ト為ルモノアリテ、其輪運輻集スルハ、一ニ之ニ從ヒ、而シテ活機ヲ整理保護スルニ、法律

唯其次ニ居ル、果シテ此ノ論ノ如クナレバ、則凡ソ法律ノ干渉スル事實ハ、恒常普通ナル者ハ、本ト大事實（即チ家團、所有之權理、政府ノ如キ）ノ恒常普通ナル者、先ツ在ルニ由テ出ツルヿ明カナリ、今マ古來經歷スル所ヲ觀察スルニ、炳然トシテ之ヲ徵ス可キ者アリ、蓋シ凡ソ法律ハ、古今ノ萬國ヲ論ゼズ、文化ノ開未ヲ問ハズ、其條目ヲ分ツ、要スルニ四門ニ出ツル莫シ、一ニ曰ク執政者ノ性質、職掌、權限ヲ定ムルナリ、二ニ曰ク財産所有者タルノ制式、及地位ヲ定ムルナリ、三ニ曰ク

家團ノ倫叙ヲ定ムルナリ、四ニ曰ク自意ニ出ヅル契約ノ負荷ス可キヿヲ定ムルナリ、此四者ハ、則萬法ノ大綱ト為ス若シ夫レ其一ニ就テ之ヲ論ズレバ則各其性質ヲ同クセズ且從屬スル者アルヲ以テ綱中又小目ヲ分ツニ至ルト雖モ、其目タル亦一轍ニ歸セザルナシ、是レ各國社會ノ組成本ト相同シキヲ以テナリ、至若人民ノ一身ニ就テ、其性質ヲ論ズルニ、其形體上ヨリスルモ、其倫理上ヨリスルモ、其繹思上ヨリスルモ、古今萬國、都テ相異ナル者ナシ、是レヲ以テ之ヲ視レ

バ法律ノ旨趣及綱目ノ、恒常不易ナラザル可ラザルヿ益〻明カナリ、

夫レ法律ハ、一國ノ成員タル人民ニ告ル所ノ命令ヲ以テ成ル者ナリ、所謂命令ハ人民ヲ視テ、意志、行為ノ自由、及ビ其旨ヲ解スルノ識力ヲ有シ而シテ遵奉背違、其跡ヲ異ニスル者ト為ルニ非ザレバ出スヿナシ、而シテ人民、若クハ一時ノ不能ニ由リ、(例ヘバ幼稚過誤、或ハ一時ノ疾病ヲ患フル者ノ如シ)若クハ永久ノ不能ニ由テ、(例ヘバ終身ノ狂病ヲ患フル者ノ如シ)命令ノ旨意ヲ會

悟スル能ハザル者アリ、或ハ外力、之ヲ妨遏スルニ由テ、(例ヘハ他人之ヲ騙聽シ、或ハ外物之ヲ障碍スルガ如キ)命令ヲ遵奉スル能ハザル者アリ、是レ常例ヲ以テ推ス可ラザル者ニシテ、故ラニ注意セザル可ラザル者トス、設令ヒ姑ク人民皆能ク命令ノ意ヲ解シテ、之レヲ遵奉スルト為スモ、尚實際ニ臨テハ、時ニ依テ其遵背ノ果シテ如何ヲ問フ可キノ事ナシトセズ、蓋シ或ハ觀察完全ナルヿ能ハズ、或ハ語話モ意ヲ盡サズ、心情動キ易ク、奸詐行ヒ易シ、而シテ人智遲鈍ナリ易シ、

是レ事情ヲ相傳スルニ、其真ヲ損シ易キ所以ニシテ、而シテ一法一律ト雖モ、司行ヲ難ンズル所以ナリ、此數障碍ハ、一國一世ニ特行スルニ非ズシテ、實ニ古今萬國ノ免レザル所ナリ、唯其大小輕重ノ同ジカラザルアルノミ、故ニ法律ノ規模大ナル者ノ中ニ於テハ、亦之ガ條目ヲ立ルヿヲ得可キナリ、

法律司行ノ障碍ト為ル者、唯此ノミナラズ、尚ホ一種ノ普通ナル者アリ、亦コヽニ論ゼザル可ラズ、夫レ成文ノ法律ハ、或ハ詞義曖昧ニシテ詳明

ナラズ、或ハ詞義明確ナリト雖モ、爭辨スル者、其全文ニ種々ノ意味ヲ附シテ、之ヲ論ズルヿ少カラズ、至若法律文ヲ成ス者ナク、唯或ハ古來ノ傳說ヲ引キ、或ハ前日ノ事案ニ據リ、以テ其法律アルヲ證スルトキハ、其引證スル所ノ事例ノ旨意若クハ彼此比例ノ輕重ヲ論スルニ、事理ノ抵牾スルヿ、極マリ無ル可シ、之ヲ要スルニ、法律ノ意旨明カナラズ、司行ノ式則詳カナラザレバ、則釋思ノ順序ヲ逐テ、之ヲ尋究セザル可ラズ、是レ即チ法律ヲ解釋スルヲ云フ、第五篇ニ詳カナリ而シテ釋思ノ順序タル、人ニ因

テ其趣ヲ異ニス、故ニ議論紛々トシテ、其是非容易ニ定リ難シ、是ヲ以テ法律ノ意旨明カナラズ、同行ノ式則詳カナラザル者ハ、則之ヲ司行スルニ障碍ヲ生ズルヿ甚ダ多キナリ、*

夫レ倫理、繹思上ヨリ論スレバ、萬國ノ人民、其性質ヲ同ジクシ、法學ノ森然トシテ、一科學ノ性質ヲ具セザル可ラザル所以ヲ見ル、業已ニ此ノ如シ、而シテ生命形體上ヨリ人民ノ性質ヲ論ズルニ、亦其ノ同ジク然ルヲ見ルナリ、蓋シ人ニ生死ノ變アリ、長幼ノ別アリ、疾病等百般ノ異變ニ罹

カル患アリ、身體活動ノ能力アリ、而シテ事物ニ先後、遠近、大小、長短等ノ差異アリテ人民須臾ヲクモ此ト關係ヲ絶ツヿ能ハズ、是等事件ハ、亦各條目ヲ為ス者ニシテ、人ノ行為ヲ導キ、千差萬別ノ事情ノ中ニ於テ、彼我ノ地位ヲ明ニスルノ法律ハ、則類ヲ照シテ各其條目ニ屬ス可キナリ、

法學ノ材料、國ノ至小ナル者ト雖モ、其堤封中ニ於テ發見ス可キ者、大略此ノ如シ、若シ夫レ時世ヲ閲歴シ邦國漸ク增建シテ、彼我ノ關係漸ク定マルニ至テハ、則法學ノ材料ト為ル者、又自ラ出

ツ、抑モ國ノ彼我ノ關係ハ、其類ヲ分テ二ト為ス一ニ曰ク各國政府相互ノ關係、二ニ曰ク各國人民相互ノ關係、一ハ則チ國際公法（パブリックス・イニトルナショナル・ラウ）ノ立ツ所以ニシテ、二ハ則チ國際私法（プライベート・イニトルナショナル・ラウ）ノ起ル所以ナリ、夫レ國ノ關係ヲ整理スル所ノ規則、國際公法若クハ國際私法ノ法律ト稱スルヲ視レバ、之ヲ遵守スル諸國ニ均同ナルヲ知ル可キナリ、而シテ外國ノ法律ヲ承認スル規則、國際私法ヲ言フモ亦同ジク然ラスンバアル可ラス、然リト雖モ國際私法ニ至テハ、則實

際ニ妨碍アリテ、其旨意未ダ均一ナルニ至ラズ、蓋シ此法ハ、或ハ外國ノ人民、本國ニ駐留スル者、本國ノ法廳ニ來テ、其鄉國ニ於テ得タル所ノ權理ヲ伸ベントヲ要シ、或ハ本國ノ人民、外國ニ駐留スル時ニ於テ權理ヲ獲タル者、本國ノ法廳ニ來テ、其權理ヲ伸ベンコヲ要スル者ノ、倫理上ノ討求アルニ因テ立ツ者ナリ、故ニ其法訣（法ヲ執ハルヘキスルノ要訣即各般ノ事案ヲ裁決スルニ其情異ナリト雖モ通シテ守ル可キ定則ナリ）ヲ立ツルニ臨テハ、法廳ハ、自國人、若クハ外國人ガ、外國ニ在テ得タル權理ヲ、果シテ承認ス可キヤ否ヤ、（語

ヲ易テ之ヲ言ヘハ其權理ニ効力ヲ與フル外國法律ハ、間ロ其事ニ渉ル法廳ニ於テモ、効力アリト為ス可キヤ否ヤノ論議、毎ニ之レ有ラザルナシ、加之其權理ノ由テ立ツ所ノ事為、或ハ一半ハ、甲國ニ在テ之ヲ為シ、一半ハ乙國ニ在テ之ヲ為シ、而シテ其權理ノ復伸ヲ求ムルハ、丙國ニ於テスルヿアリ、或ハ原告若クハ被告、甲國ノ人民ニシテ、乙國ニ居住シ、而シテ丙國ニ駐留スル時、會マ權理ノ復伸討求ノ事アリ、其續紛錯雜ニシテ、一定シ難キヤ此ノ如シ、是レ國際私法ノ未タ均

一ニ至ラザル所以ナリ、然リト雖モ今枚舉陳說スル所ヲ以テ之ヲ視レバ、則國際私法ヲ制立スルハ、其目的、各國人民ノ交通ヲ便利ニシ、及ヒ其間、不公不平ノ事ヲ防遏スルニ在ルヿ明カナリ、故其各國ノ法廳、畫一均同ノ道理ニ據リ、之ガ法訣ヲ設為適用スルニ至ラバ、則其目的、得テ達ス可キナリ、唯歐州ノ諸大國、今猶ホ互ニ猜忌シテ、親和合同ゼズ、且局量偏狹ニシテ、唯自國法廳ニ慣用スル法義(プリンシプル)ヲ養成シ、其外國ノ例規ト氷炭相容レザルガ如キニ至ルモ、曾テ顧ミズ、而シテ未

ダ大ニ法義例規ヲシテ、共ニ畫一均同ニ歸セシムルヿヲ企ツル者アラザルナリ、然リト雖モ財産ノ權理、或ハ契約、或ハ家園、或ハ犯罪、凡ソ法律ノ一條目ヲ為ス者ハ、脉絡互ニ相通スルノ理ヲ悟ルヿ益〻明カナレバ、諸國々際私法、其式則意旨ヲ畫一均同スル、終ニ期ス可ラザルニ非ザルナリ、之ヲシテ此域ニ至ラシムルハ、則法學ニ於テ最モ實際ニ渉リ、最モ希望ス可キ目的ノ一ナリ、然リト雖モ果シテ之ヲ成スニハ、毎事毎件、制法學ノカヲ藉ラズンバ能ハザルナリ、猶ホ後篇司行法（治罪訴訟ノ兩法ヲ總稱シテ司行法ト云フ法律ヲ司行スルノ法ノ謂ヒナリヲ論ズルニ至テ、更ニ之ヲ詳ニセント欲ス、

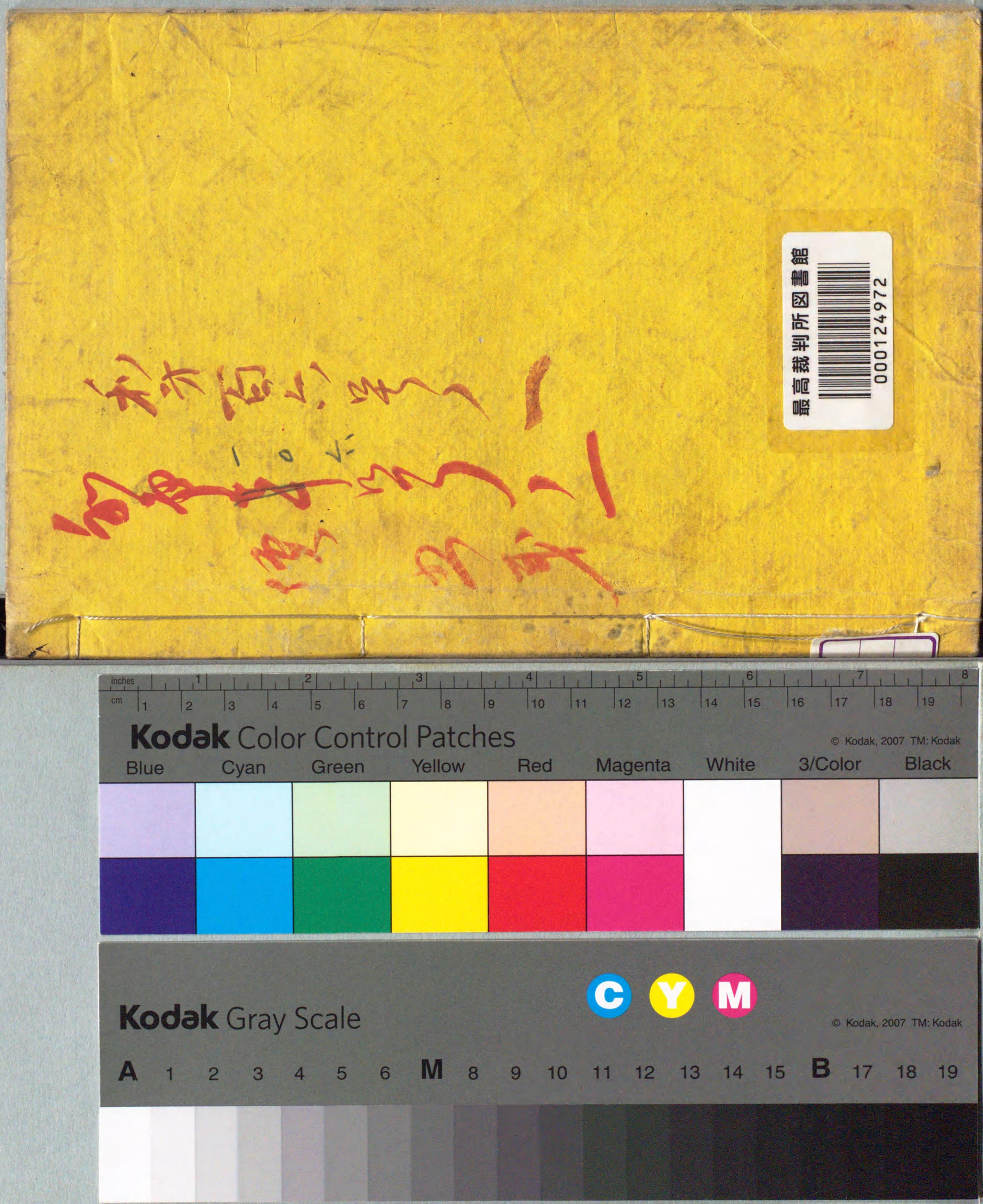
前ニ論究スル所ヲ以テ之ヲ視レバ、則真ノ法學ハ本ツク所、恒常不易ナル人間社會ノ事實、人ノ形體、精思及倫理上ニ於テ見ル、者ニ在ルヿ明カナリ、而シテ此學ヲ研磨スルノ目的ハ、一ニハ各國ノ法律ヲ講スルニ、其綱目ノ分ル、所以ノ理、其編次ノ旨趣、及ヒ其司行ノ式則ノ要領ヲ握リ、以テ容易ニ其全體ヲ通曉スルニ在リ、二ニハ

W 321.1
A45
1(1)

10
18

世勢ノ一新スル時ニ臨ミ、國法ヲ補刪訂正シテ、以テ其緩急ニ應ズルガ為メ、次序ヲ逐テ其全體ヲ視察スルニ在リ、三ニ文辭精審、理義確當ニシテ、善ク開成セル國際公法ヲ獲ルニ在リ、四ニ萬國際私法ノ法訣、諸國ノ採ル所皆異ニシテ、紛亂錯雜、或ハ專擅ナル者ヲ均一ニ歸シ、以テ萬國ニ通ゼシムルニ在リ、

中村貞校字



最高裁判所図書館
0001124972